



### 受験モードに突入! 3年生進路講演会

多くの部活動で最後の県大会を終え、3年生はいよいよ本格的に受験モードに突入する。6月14日(水)7限目に、3年生を対象に北九州予備校小倉駅校の大山純治先生による進路講演会が行われた。

軽妙な語り口で、生徒たちも最後まで集中してよく話を聞いていた。その話の中で、これからの受験勉強で大事なことを3つ強調された。

#### よく寝る

学習内容の定着を図るためにも、まずは睡眠時間をしっかり確保することが大切。日付が変わる前には寝るようにしよう。その分、朝早く起きるようにしよう。

#### よく食べる

脳を活性化させるために、しっかり朝食を摂ってることが大切。朝食を摂らなければ、特に午前中の勉強の質が落ち、実際に学力差が出るという調査結果がある。

#### よく学ぶ

よく学ぶためには、次の2つを意識することが重要になる。

- ・集中する  
高い集中力を維持するためには、姿勢が大切。椅子に座るときの座り方を意識しよう。
- ・くり返す  
記憶はくり返すことによって定着する。くり返すための学習の流れを意識しよう。

3年生は、この講演会でおおいに刺激を受けたようだ。これから本格的に受験勉強を進めていくにあたって、こういう「勉強の型の基本」を大事にして、自分の進路実現に向けて頑張っていってほしい。

今回は3年生対象の話であったが、話された内容ほどの学年においても重要なことではないかと思う。これからの自分の勉強スタイル確立の参考にしよう。

### 3年生放課後補習(自習)始まる

進路講演会の翌6月15日(木)から、3年生の放課後補習が始まった。部活動が残っているいくつかの部を除いて、全員が各教室で16時50分から18時までの70分間集中して学習に取り組んでいる。

昨年から、前期中は原則として自習の形式をとっている。その日その日の授業で学んだことをしっかり復習して定着させる時間として、宿題以外に自分の弱点克服のための勉強にあてる時間として、それぞれが自分なりの目標をもってこの時間を活用している。

また、廊下には担任または副担任が机椅子を出して座っており、各教科の疑問点を1つ1つ解決していくために質問の列ができていく姿もよく見られる。

「受験は団体戦」と言われるが、放課後の教室で必死に努力している姿をお互いに見て、刺激を受けながら学力を高めていってもらいたい。

#### 『百聞は一見に如かず』

#### オープンキャンパスに参加しよう

ほとんどの大学が、夏休み期間に「オープンキャンパス」を行っている。オープンキャンパスとは、大学がキャンパスを開放し、高校生・保護者・教員等へ向けて、進学相談や模擬授業、資料配付などを行うものである。

大学を調べるにあたっては、大学案内やホームページを見るなどの方法があるが、実際に大学に足を踏み入れて自分の目や耳で体験することは、それらとは全く違う経験になる。それぞれの大学で、趣向を凝らしたオープンキャンパスが準備されている。ホームページなどでは感じることはできない、キャンパスやその周辺の町の雰囲気を感じ、学生と交流して話を聞き、自分の進路志望を固める機会としておおいに活用して欲しい。

詳細については、進路資料室で資料を見たり、各大学のホームページを見て調べる。進路資料室にはインターネットに接続した生徒用パソコンがある。利用したいときは気軽に申し出てほしい。

## 初めての試験を終えて…

先日、高校に入って初めての定期考査である中間考査が行われました。それぞれ結果はどうだったでしょうか。満足できた人、不満だった人、こんなはずじゃなかった…、いろいろあるかと思います。大事なものは、今の結果に一喜一憂するのではなく、**これからどのように過ごすべきかについて考える**ことではないでしょうか。

鹿児島中央高校に入学できたことだけで満足していませんか？ もうそういう時期ではないでしょう。むしろここから次の進路を考え始めなければなりません。先の話と感ずるかもしれませんが、進学を目指していく上ではここからが、スタートラインでしょう。これからの過ごし方が皆さんの3年後を決めると言っても過言ではありません。「後悔先に立たず」。これから、どのように過ごすべきかを考えてみましょう。

## いつ基礎固めをするの？今でしょ！～5月宅習時間調査を踏まえて～

大学入試のほとんどは「1・2年生の既習範囲」から出題されます。それならば、まず、「今学習している範囲の内容理解を深めること」＝「基礎固め」をしっかりとしておきたい。基礎固めとは持っている知識を活用できるところまで高めるといことです。**しっかりとした基礎がなければ、本当の応用力は身につけません**。今、学校から課される課題とともに、自分の弱点を補強する学習を目指してください。

5月15～19日に実施された本年度1回目の宅習時間調査の結果をお知らせします。示しているのは、学年平均値です。5月の時点の数字ですが、本当にこのままで良いのかを考える材料になると思います。調査を実施した時期は違います（28年度は5/28～6/3。中間考査2週間前。53期は6/16～22。実力考査前）が、昨年度より時間数が減少しているのが気になります。時間が長ければ良いというものでもありませんが、時間をかけないとできないものもあるはずです。まずは、**粘り強く机に向かう習慣**を身につけたいものです。

	週合計	平日	土曜日	日曜日	睡眠
平成29年度（55期）	19：42	2：26	3：18	4：22	43：55
平成28年度（54期）	26：49	2：58	5：01	6：56	43：35
平成27年度（53期）	23：56	2：36	4：38	6：17	42：46

国語	数学	英語	化基	科人	現社	※上段29年度・中段28年度・下段27年度 28・27年度は科学と人間生活でなく 物理基礎を履修。
2:55	7:59	7:32	0:23	0:11	0:27	
( 4:27	8:04	8:36	1:40	1:51	1:36 )	
( 4:31	7:44	5:35	2:31	3:20	2:46 )	

皆に「平等」に与えられている「時間」という「有限な」財産をどう使っていくのか、自分でよく考えてもらいたいです。「**時間管理は自己管理**」です。自分の夢の実現に向かって、最大限の努力をしてください。**7月1日は、進研模試も実施**されます。県内だけでなく全国の高校生たちとの真剣勝負です。まずはそれに向けて、しっかり「学び」を深めていってください。

## でも学んで、学力って、何だ？～内田樹「学ぶ力」より抜粋

「学ぶ力」は他人と比べるものではなく、個人的なものだと思います。「学ぶ」ということに対してどれくらい集中し、夢中になれるか、その強度や深度を評するためにこそ「学力」という言葉を用いるべきではないでしょうか。そして、それは「**昨日の自分と比べたとき**」の変化が問題なのだと思います。もし「力」が伸びているなら、それは今の生き方が正しいということですし、「力」が落ちていけば、それは今の生き方のどこかに問題があるということです。人間が生きてゆくために本当に必要な「力」についての情報は、他人と比較したときの優劣ではなく、「**昨日の自分**」と比べたときの「力」の変化についての情報なのです。



……さて、君は昨日の自分より成長しているのだろうか？

### 3年生の部活引退に際して思うこと…



24日の第55回文化祭をもって生徒会本部役員が新執行部に代わったように、6月中旬に全国大会・九州大会の壮行会が行われた5競技、15名の3年生と音楽部、野球部を除いた多くの部活動で2年生主体の新体制がスタートしました。いよいよ、54期生の君たちが、様々な場面で責任を負う本校の中心としての活躍が期待される立場になったわけです。

夏の甲子園が近づくと、TVでよく取り上げられるのが、愛知県の各地で組まれる3年生の花道としての親善試合。最後の夏の大会に、補欠部員となってしまった3年生の引退試合です。この日の主役は、両チームの3年生補欠部員達。彼らがいつも担当している雑用から準備までを本来のレギュラーメンバーが行い、選手達は各々自分の好きな背番号をつけて、最後の試合に臨む。試合後はレギュラー選手を支える裏方に徹することになる。

強豪高校で部活をするということは、必ずしも全員が日の目を見るわけではない。毎年、実力のある選手が入部してくる、まさしく弱肉強食の世界。強豪高校だからこそ、ベンチに入れなかったという厳しい現実です。

ただ、こうした厳しい現実が強豪校に限らず、いずれの部活動であってもごく普通にあること。

3年間一緒に頑張ってきたメンバーと共に、お互いがそれぞれの弱点をカバーし合いながら、団体戦で勝利することは、個人戦での勝利以上の喜びが得られるもの。だから、まずはそのメンバーに選ばれることを目指して厳しい練習に耐えます。しかし、ある日突然、監督に個人戦での出場を打診される。イコール、団体戦のメンバーから外れるということ。勝負の世界の厳しい現実です。一方で、団体戦に選ばれたメンバーには、選ばれなかったチームメイトのためにも結果を出さなければ…といったプレッシャーを背負うことになります。同様の経験をしたことのある生徒も多いはず。

さて、今回君たちに考えて欲しい大切な部分はここから。

#### 1つ目。「どういう形で最後の大会を締めくくるかということ」

華やかな活躍の場が与えられるレギュラーの陰には、選ばれなかったその数倍もの選手がいるわけです。高校最後の大会のメンバーに漏れたときの気持ちは推して知るべし。大切なのは、自分に与えられた役割をいかに果たすかということです。メンバーに選ばれた側の選手として、選ばれなかった選手の思いをいかにして受け止めるのか？ 選ばれなかった側として、レギュラーをいかにしてサポートしていくのか？ 部活動で学んできた真価が試される時なのかもしれません。

#### 2つ目。「周囲の思いをいかに受け止めるかということ」

高校総体の県予選には多くの保護者も応援に来られます。決してレギュラーの親だけではありません。レギュラーに選ばれなかった生徒の保護者もたくさん来られています。どんな思いで応援されているか考えたことがありますか？ 最後の試合には出られなかったけれども、3年間頑張ってきた自分の子どもが、他のメンバーを一生懸命支える姿を目に焼き付けるためです。いろんな苦しい思いをしながらも3年間頑張ってきた自分の子どもに対するご苦労様の気持ちとともに、引退後の受験に向けての最後の追い込みを期待しながら、エールを送るためです。

本校の大部分の生徒の最終目標は上級学校への進学です。あくまでもメインは学業です。好きな部活動をする以上、絶対に志望校に合格しなければなりません。これができたとき初めて「文武両道」は実現されます。ただその過程で、新チームの中心に立つべき立場だからこそ、悔しい思いをしたり、多くの辛いことも経験するかもしれません。しかし、こうした経験は、今後の君たちの人生に必ず活かされるはず。君たちの部活動引退まで残された時間は1年間。引退する際に、素晴らしい仲間たちと出会えたことを誇りに思えるよう、周囲のサポートに感謝しながら精一杯頑張りたいです。まさしく、三綱領・五条目の中の「積極敢為 自ら運命を開拓せよ」「自主自立 責任を完遂せよ」を実現するときです。

## **全国高校総体鹿児島県予選大会、躍動する赤組メンバーの姿がありました。**

全国高校総体鹿児島県予選大会。高校生活最後の県大会で、全国高校総体や九州大会、南九州大会出場など、団体戦や個人戦で多くの選手が上位大会の出場権を獲得してくれました。また、準々決勝進出（ベスト8）や決勝トーナメント進出（ベスト8）、優秀賞獲得など、どの部活動も本当に良く健闘してくれました。日頃の練習の成果を発揮できず、惜敗に悔し涙を流した人もいますが、3年間仲間と一緒に最後まで頑張ったことにも、部活動の意義はあると思います。本当にお疲れ様でした。

## **第38回音楽部の定期演奏会に、多くの赤組メンバーが駆けつけてくれました。**

6月17日（土）。第38回鹿児島中央高等学校音楽部・合唱部の定期演奏会が鹿児島市の宝山ホールで開催されました。自分（＝廣瀬）は野球部の練習試合のために、演奏会の終盤ようやく間に合ったのですが、演奏やダンス、合唱など全てが魅了する素晴らしいもので、観客も聞き入っていたようです。

県立図書館や学校で自習をしていた生徒が、定期演奏会の開演に合わせて会場に駆けつけてくれました。運動系部や文化系部に関係なく、同じ赤組メンバーの一員として、お互いを応援して盛り上げようとする姿に、学年や学校全体の一体感を感じました。まさに「入試は団体戦」であると言えます。

## **7月に進路検討会が開催されます。先生方からどの様なコメントを頂けるでしょうか。**

6月に進路検討会があり、3学年の現状分析や課題について意見交換がありました。7月には、生徒一人一人について検討していくことになります。先生方から、どの様なコメントを頂けるのでしょうか。

自分（＝廣瀬）が過去の勤務校で経験した進路審議会で、忘れられないNさんという生徒がいます。Nさんは明朗誠実で、大変な努力家でした。英語の勉強がしくて国際文化関係の学科を志望していましたが、大学入試センター試験では思うような点数を取ることができませんでした。大学入試センター試験後の進路検討会、Nさんの第1志望の公立大学はE判定でした。しかも個別学力試験（2次試験）は英語のみ200点の配点だったので、E判定を逆転して合格するのは極めて厳しい状況にありました。

そんな重苦しい雰囲気の中で、自分は「この生徒は大丈夫です。合格します。」「いや、自分が合格させます。」と言い切りました。30数年の教員生活で「この生徒は合格します。」と言ったことはあっても、「自分が合格させます。」と宣言したことはNさんが初めてでした。大した指導力も無く、何の根拠も確信も無い状況で、思わず自分にそこまで言わせたのは、彼女の真摯な学習姿勢によるものでした。

## **模試は「経過」であって、「結果」ではありません。一体感で頑張れ！ミラクル赤組！**

それから1ヶ月間、個別試験が英語だけのNさんは、自分の授業を100時間受講し、その倍以上の時間を自習に当て、過去出題されていない英語要約問題にも、英作文対策で熱心に取り組んでいました。

合格発表当日。落ち込んだ表情で職員室に入ってきたNさんを見て、自分は不合格を確信しました。しかし、結果はE判定からの信じられない合格。「出題傾向が変わり、英語要約問題が出題されていましたが、何度も練習した形式だったので落ち着いて解答できました。」とのことでした。「E判定のNさんは配点200点の個別試験で満点近く得点しないと、奇跡の逆転合格はありません。」と、周囲の先生方は予想していましたが、ひたむきに努力するNさんを多くの先生方が応援していたのも事実でした。

先日、K先生の「模試は経過であって結果ではない。」の言葉に自分は感動しました。7月や12月、大学入試センター試験後に進路検討会が予定されています。現在の赤組メンバーの中で果たして何人の生徒が、担任を始めとして、各教科担当や1、2年次に指導を頂いた先生方などから、「この生徒は大丈夫です。」とか「私が責任を持って合格させます。」と言って頂けるのでしょうか・・・。（文責・廣瀬）